

成田市役所エコオフィスアクション(第4次成田市環境保全率先実行計画)令和元年度結果

2018(平成30)年3月策定の「成田市役所エコオフィスアクション(第4次成田市環境保全率先実行計画)」では、市のすべての施設から排出される総排出量(一般廃棄物の溶融分を除く)及び原油換算一次エネルギーの使用量を2016(平成28)年度と比較して2022(令和4)年度までに**6.0%削減**すること並びに一般廃棄物の溶融に伴う温室効果ガス排出量を**12.3%削減**すること。計画期間は2018(平成30)年度から2022(令和4)年度までの5年間です。

1. 温室効果ガス総排出量

温室効果ガスの排出量は、直接測定するのではなく、排出量を算定しようとする期間における活動量(例えば、ガソリン・電気・ガスの使用量)に、国が定めた排出係数(一単位あたりの活動に伴う温室効果ガスの排出量)を乗じて算定しています。

市の事務事業の実施に伴う令和元年度の温室効果ガス総排出量は**50,615(t-CO₂)**であり、基準年度(平成28年度)と比較し**15.7%の削減**となりました(表1参照)。

分類別に見ると「市役所分」は**16.2%の削減**、「一般廃棄物溶融分」については**15.4%の削減**となっています。

市役所分の削減の要因としては、電気の使用に関して使用量の削減及び排出係数が低い株式会社成田香取エネルギーとの契約施設の増加、一般廃棄物溶融分の削減要因としては、一般廃棄物処理量の減少及び組成分析の結果においてビニール等の割合が低下したことに起因します。

昨年度に続き削減目標を達成しており、目標年度に向け、更なる省エネルギー化等を推進し、環境配慮行動を率先して実施してまいります。

表1:令和元年度温室効果ガス総排出量

分類	平成28年度排出量 (t-CO ₂)	令和元年度排出量 (t-CO ₂)	増減量 (t-CO ₂)	増減率
市役所分	21,903	18,348	-3,555	-16.2%
一般廃棄物溶融分	38,130	32,267	-5,863	-15.4%
合計	60,033	50,615	-9,418	-15.7%

2. 各種活動量実績, 活動種類別温室効果ガス排出量

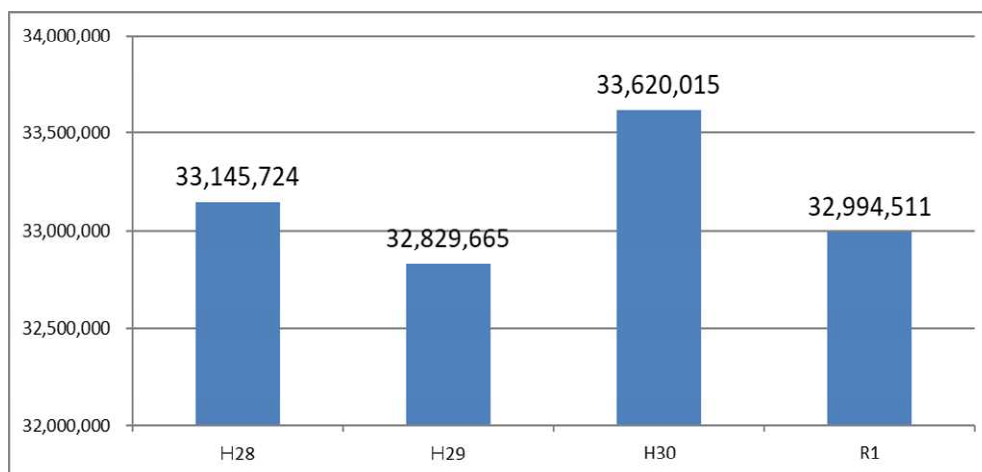
(1) 市のすべての施設から排出される総排出量（一般廃棄物の溶融分を除く）

令和元年度における活動量の実績については表2のとおりです。基準年度と比較するとガソリン及び軽油が増加しております。電気の使用における温室効果ガスの排出量については、排出係数が低い株式会社成田香取エネルギーとの契約施設増加の影響により16.9%削減しており、使用量についても、基準年度と比較すると0.5%の削減となっておりますが、職員においては、節電の必要性を認識してもらうとともに、施設管理者においては、利用者への節電の啓発のほか、電気使用量の計測・管理の徹底に努めることとします。

また、ガソリン及び軽油の使用量も基準年比で増加しており、今後も、計画的な走行、エコドライブの実施などを心掛けるとともに、庁用車を入れ替える際には、引き続き低燃費車など環境負荷の少ない車の導入を推進します。

活動の種類	単位	平成28年度活動量			令和元年度活動量			平成28年度排出量			令和元年度排出量		
		基準年度	令和元年度	増減率	基準年度	令和元年度	増減率	基準年度	令和元年度	増減率	基準年度	令和元年度	増減率
燃料の使用	ガソリン	L	142,315	146,751	3.1%	330	341	3.2%	127	131	3.2%		
	灯油	L	287,866	265,119	-7.9%	717	660	-7.9%	273	251	-8.0%		
	軽油	L	43,936	51,251	16.6%	113	132	17.2%	43	50	15.9%		
	A重油	L	220,218	207,427	-5.8%	597	562	-5.8%	222	209	-5.7%		
	LPG	m3	41,865	29,467	-29.6%	126	88	-29.8%	55	77	39.9%		
	都市ガス	m3	1,648,285	1,329,294	-19.4%	3,676	2,964	-19.4%	1,914	1,536	-19.7%		
電気の使用	kWh	33,145,724	32,994,511	-0.5%	16,237	13,495	-16.9%	8,490	8,461	-0.3%			
自動車の走行量	km	1,552,276	1,390,103	-10.4%	14	12	-14.3%						
し尿の処理	m3	26,947	25,912	-3.8%	33	32	-3.0%						
農業集落排水	人	2,695	2,673	-0.8%	58	58	0.0%						
その他					3	3	0.0%						
合計					21,903	18,348	-16.2%	11,123	10,715	-3.7%			

表2: (参考)電気の使用量(単位:kWh)



(2) 一般廃棄物の溶融に伴う温室効果ガス排出量

平成24年10月から稼働している「成田富里いずみ清掃工場」では、ガス化溶融炉方式を採用しております。一般廃棄物の溶融に伴う温室効果ガスの排出量は、基準年度(平成28年度)と比較し **15.4%の削減**となりました(表3参照)。

主な削減要因としては、一般廃棄物処理量の減少及び組成分析の結果においてビニール等の割合が低下したことに起因します。

今後も、プラスチックをはじめとしたごみ減量のため、市で運営する各種イベントや会議等でもリユース食器の使用やマイボトルの持参等を推進いたします。

表3:活動量・活動種類別温室効果ガス排出量(一般廃棄物溶融分)

活動の種類	単位	平成28年度活動量 (基準年度)	令和元年度活動量	増減率	平成28年度排出量 (t-CO2)(基準年度)	令和元年度排出量 (t-CO2)	増減量 (t-CO2)	増減率
一般廃棄物の処理 (全量)	t	60,726	55,806	-8.1%	1,027	943	-84	-8.2%
一般廃棄物の処理 (廃プラスチック)	t	13,710	11,602	-15.4%	37,102	31,324	-5,778	-15.6%
合計					38,130	32,267	-5,862	-15.4%

3. その他

本結果の数値公表にあたり合計欄等において、四捨五入による端数処理の関係上、数値が一致しない場合があります。